

平成 23 年度
教育訓練事業（専門課程・短期研修）
フォローアップ調査報告書

国立保健医療科学院

平成 23 年度 国立保健医療科学院専門課程・短期研修 フォローアップ調査報告書 総括

1. 本調査の目的

国立保健医療科学院（以下、科学院）は、現在、研究課程、専門課程Ⅰ～Ⅲ、短期研修の教育研修を実施しており、年間 2000 名以上の修了生を出している。継続的に教育研修の質の向上を図ることは、科学院での教育訓練事業を発展させる上で極めて重要と考えられる。今回、研修の有用性の検証と研修に関するニーズ把握を目的として、主として平成 22 年度の派遣元及び修了生を対象にフォローアップ調査を実施したので、その結果の概要を報告する。

2. 対象と方法

調査の対象は、専門課程については、現行のⅠ、Ⅱのうち 4 分野（保健福祉行政管理分野、地域保健福祉分野、生物統計分野、健康危機管理分野）、Ⅲの地域保健福祉専攻科、地域保健臨床研修専攻科、医療安全管理専攻科の平成 22 年度修了の派遣元及び修了生とした。ただし、明確な派遣元がない分野もあるので、その場合は、修了生のみを対象とした。

短期研修では、これまで調査が未実施だった 9 研修を対象とした。具体的には、「生活習慣病対策健診・保健指導に関する企画・運営・技術研修（計画編）」、「同（評価編）」、「たばこ対策の推進に関する研修」、「健康・栄養調査の企画・運営・評価に関する研修」、「歯科保健研修（歯科専門職向け）」、「エイズ対策研修」の 6 研修については、平成 21、22 年度修了生の派遣元及び修了生を対象に、「介護保険指導監督中堅職員研修」、「医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修」、「ユニットケアに関する研修」の 3 研修については平成 22 年度の派遣元及び修了生を対象にした。

自記式質問票を郵送にて派遣元および修了生に配布し、FAX または郵送にて回収した。派遣元の郵送先は、専門課程の場合は衛生主管部局宛とし、短期研修の場合は応募書類を参考に派遣部局を特定した。

質問項目は、共通質問のパートと分野・研修別の個別質問のパートからなっており、前者は、「役に立っているか（派遣元・修了生）」、「今後も派遣したいか（派遣元）」、「他の人に勧めたいか（修了生）」、「国として今後も継続して実施すべきか」、「インターネットによる遠隔授業の導入による変化（修了生のみ）」を尋ね、後者は、各分野・研修に特化した質問項目を数問から数十問尋ねた。

3. 結果の要約

回収率は、専門課程全体で派遣元 59%（回収数／送付数 = 26／44）、修了生 79%（42／53）で、対象となった短期研修全体では、派遣元 63%（回収数／送付数 = 604／964）、修了生 75%（904／1206）であった。

専門課程の結果

「(たいへん) 役に立っている」との回答は、派遣元 93%、研修生 100% であり、「(ぜ

ひ) 派遣したい（派遣元）」は88%、「（強く）勧めたい（研修生）」も100%と、全体としては、派遣元・研修生ともに肯定的な意見が大多数であった。本研修を国として「（是非とも）実施すべき」との回答も派遣元、修了生ともほぼ全数であった。

その他、修了生の意見として、「多職種で連携して事業に取り組む際に合臨での経験が役立っている（保健福祉行政管理分野）」、「公衆衛生的視点を常に意識した遂行。視野が広がった。予算・企画などで、専門職として自分が頑張らなければともっと強く思うようになった。（地域保健福祉分野）」、「行政との連携をスムーズに行えるようになっている。（健康危機管理分野）」、「保健所では事例検討や地域診断で役に立った。（地域保健福祉専攻科）」、「医学部での平常の授業や臨床研修では決して体験できないようなプログラムがあり、どれも新鮮な気持ちで取り組みました。病院という狭い世界から視野を広げるのにとても良いと思います。（地域保健臨床研修専攻科）」などの意見が得られた。また派遣元からも、「公衆衛生の課題や解決方法の考え方など、リーダーとして必要な知識を習得することができたと評価している。（保健福祉行政管理分野）」など研修の有用性に関する意見が寄せられた。

短期研修の結果

「（たいへん）役に立っている」との回答は、派遣元89%、研修生81%であり、「（ぜひ）派遣したい（派遣元）」は89%、「（強く）勧めたい（修了生）」も87%と、全体としては、派遣元・修了生ともに肯定的な意見が大多数であった。本研修は国として「（是非とも）実施すべき」は、派遣元88%、修了生90%であり、概ね国が実施する意義は認められていた。

インターネットを用いた遠隔研修について

専門課程では、「今より研修に参加しやすくなる」が派遣元42%、修了生24%、「変わらない」がそれぞれ8%、10%、「どちらとも言えない（判断できない）」が46%、67%と3つに意見が分かれた。短期研修でも同様の傾向で、「今より研修に参加しやすくなる」が派遣元30%、修了生25%、「変わらない」が10%、14%、「どちらとも言えない」も56%、61%で意見が分かれていた。修了生側に若干消極的な傾向がみられるのは、実際に集合研修で顔をつきあわせて授業を受けた経験があるためとも考えられる。

4. 調査を踏まえた提案

今回のフォローアップ調査に寄せられた意見を各分野・研修ごとに検討し、さらにそれらをまとめたところ、専門課程、短期研修について、それぞれ以下のように集約されたので、対応策とともに述べる。

専門課程への提案

短期的なもの

- ・現場のニーズや研修生の経験に合った講義内容の導入（保健福祉行政管理分野・地域保健福祉分野）

結核、精神保健、立入検査、環境衛生、ベテラン保健所長の経験、実地見学などの講義内容の増加を望む声もあった。これらは、比較的容易に実現可能であると思われる。委員会等で検討したい。

また、公衆衛生の基礎知識が少ない研修生への配慮・支援を望む意見もあり、例えば課外等で対応可能かも含めて検討したい。

中長期的なもの

- ・1年コースの抜本的検討（保健福祉行政管理分野・地域保健福祉分野）

近年応募者が少なく、また特定の自治体に限られている1年コースのあり方について抜本的な検討が必要である。

- ・フォローアップ研修の検討

地域保健福祉専攻科について、3か月間の研修後のフォローアップの必要性・実現可能性が課題である。

短期研修への提案

・研修によっても異なるが、フォローアップ（科学院職員に相談できる体制）・出張研修（サテライト研修）については、一定数の要望があった。前者については、研修主任・副主任によって現在も実施されているので研修生へのさらなる周知が重要である。後者については、委員会等で真剣に検討すべき時期に来ていると考えられる。

5. 今後のフォローアップ調査について

結果の数値については過去2回とそれほど大きな差はみられなかった。回収率は若干低めに推移している。専門課程の1年コースの見直し、短期研修の出張研修（サテライト研修）については、現実的な対応が求められている。

6. おわりに

ご多忙の中、今回の調査に回答してくださった皆様には心から感謝申し上げる。

概ね高い評価をいただいたことについて、感謝申し上げるとともに身が引き締まる思いである。たいへん多くの貴重なご意見・ご指摘をいただいた。院内の委員会等でそれぞれ前向きに検討していきたい。

全国の派遣元と修了生が国立保健医療科学院を支えてくださっていることを常に心に留めて、国としての研修のあり方を考えつつ、よりよい研修の実現に務めていく所存である。

研修名	歯科保健研修 (歯科専門職向け)						エイズ対策研修						介護保険指導監督 中堅職員研修		医療ソーシャルワーカー リーダーシップ研修		
	平成21年度			平成22年度			平成21年度			平成22年度			平成21年度			平成22年度	
	派遣元	研修生	派遣元	研修生	派遣元	研修生	派遣元	研修生	派遣元	研修生	派遣元	研修生	派遣元	研修生	派遣元	研修生	
発送数	10	10	12	12	53	70	23	25	10	10	59	83	95	165	91	91	
回収数	8	9	8	10	41	51	14	20	7	8	48	67	68	128	50	68	
回収率	80.0%	90.0%	66.7%	83.3%	77.4%	72.9%	60.9%	80.0%	70.0%	80.0%	81.4%	80.7%	71.6%	77.6%	54.9%	74.7%	
(派遣元へ) 本研修は既に立っていますか	4	2	4	4	18	20	3	6	1	1	21	18	25	32	16	18	
(研修生へ) あなたの現在の職務遂行にひとつでも、本研修は役立っていますか	4	5	4	6	21	24	10	9	5	4	24	38	33	73	27	41	
全く役に立っていない	2				1	4	1	3		3	2	8	5	15	7	9	
ぜひ派遣したい 強く勧めたい	3	4	4	3	20	22	3	8	3	1	25	19	31	35	19	22	
(派遣元へ) 今後も本研修の職員を派遣したいと思いますか	5	4	4	7	19	24	10	9	4	5	21	44	33	85	22	35	
(研修生へ) 本研修を他の人に勧めたいと思いませんか	1				3		1		2	1	2	1	2	3	8	9	
派遣したくない 勧めたくない									1							1	
是非とも実施すべきである	5	6	4	4	25	27	6	9	4	2	27	26	36	55	23	33	
実施すべきである	3	2	4	6	12	31	6	8	2	4	19	37	30	66	16	23	
本研修は国として今後も継続して実施すべきだと思いますか	1				3	1	1	2	1	2	1	2	2	7	11	11	
実施する必要はない 実施する必要は全くない																1	
科学院の集会研修の前後にインターネットによる遠隔授業を取り入れて総合研修期間の短縮化を図ると、どのような変化が予想されますか	4	4	4	11	12	4	6	3	4	13	15	14	18	23	25		
変わらない どちらとも言えない (判断できない)	1		1		2	1		1		5	11	9	44	4	7		
	3	5	3	5	25	36	9	11	4	4	23	37	44	91	22	35	

研修名	ユニットケアに関する研修 (派遣医師が主に サービスマネジメント)			合計	
	派遣元	研修生	派遣元	研修生	
発送数	95	136	964	1206	平成22年度
回収数	46	106	604	904	
回収率	48.4%	77.9%	62.7%	75.0%	
(派遣元へ) 本研修は役に立っていますか	大変役立っている 役に立っている	20 24	37 51	32% 57%	25%
(研修生へ) あなたの現在の職務遂行にどうつ て、本研修は役立っていますか	どちらとも言えない 役に立っていない	2 9	6 0	8% 0%	13% 4%
	全く役に立っていない	1	0	1%	
(派遣元へ) 今後も本研修の職員を派遣したい いと思いますか	せひ派遣したい 強く勧めたい 派遣したい 勧めたい	16 28	32 63	36% 52%	27% 60%
(研修生へ) 本研修を他の人に勧めたいと思 いますか	どちらとも言えない 派遣したくない 勧めたくない 絶対に派遣したくない 絶対に勧めたくない	2 1 1 0	9 1 1 0	9% 12% 0% 0%	12% 0% 0% 0%
	是非とも実施すべきである 実施すべきである	19 26	35 61	42% 46%	38%
本研修は国として今後も継続し て実施すべきであると思います か	どちらとも言えない 実施する必要はない 実施する必要は全くない	1 0	8 0	10% 0%	8% 1%
科学院の集合研修の前後にイ ンターネットによる遠隔授業を取 り入れて集合研修期間の短縮 化を図りますか	今より研修に参加しやすくなる 変わらない どちらとも言えない (判断できない)	13 4 29	28 15 60	30% 10% 56%	25% 14% 61%